

問1 東北地方に位置する秋田県の農業は、全国的にも有名な「あきたこまち」などの稲作が盛んですが、その生産統計上の特徴を説明したものととして最も適切なものはどれですか。（2019年 秋田県公立入試 類似）

1. 農業生産額全体に占める米の割合が非常に高く、米を主軸としながら野菜や畜産を組み合わせた生産が行われている。
2. 広大な土地を活かした大規模な畜産業が最も盛んで、米の生産額よりも豚や鶏などの畜産の生産額が大幅に上回っている。
3. 冷涼な気候を利用したりんごなどの果実栽培に特化しており、県全体の農業生産額の半分以上を果実が占めている。
4. 大都市への出荷を目的とした施設園芸農業が中心で、米よりも花きや工芸作物の生産に力を入れている。

問2 東北地方の果樹栽培について、2015年の統計でりんごの収穫量が全国1位であり、西洋なしの収穫量でも全国2位となっている県はどこですか。（2017年 山口公立入試 類似）

1. 青森県
2. 山形県
3. 福島県
4. 岩手県

問3 青森県の人口ピラミッドの推移において、底辺が狭く高齢層が厚い「つぼ型」の特徴が顕著に表れ、少子高齢化が最も進行していることを示すグラフに対応する年代として正しいものはどれですか。（2025年 青森県公立入試 類似）

1. 1980年
2. 1990年
3. 2000年
4. 2020年

問4 東北地方において、津軽塗や南部鉄器といった伝統的工芸品が古くから発展してきた背景を説明したものととして、最も適切な理由はどれですか。（2022年 京都公立入試 類似）

1. 積雪の多い冬の農閑期に、屋内でできる貴重な現金収入源として技術が磨かれたため
2. 江戸時代に整備された五街道のすべてが東北地方を起点としており、物流の拠点であったため
3. 東北地方は8つの県で構成される広大な地域であり、各藩が共通の特産品を推奨したため
4. 一年を通じて温暖な気候に恵まれ、屋外での大規模な手作業に適していたため

問5 東北6県の主要な祭り（青森ねぶた祭、盛岡さんさ踊り、仙台七夕まつり、秋田竿燈まつり、山形花笠まつり、福島わらじまつり）に関する2024年のデータを確認すると、来客数が2019年比で減少している場合でも、地域にもたらす利益が増加している事例が見られます。来客数だけに頼らず、地域全体の利益を最大化するための戦略として、最も適切な説明はどれですか。

（2026年 千葉公立入試 類似）

1. 有料観覧席の導入や体験型ツアーの充実により、観光客1人あたりの消費額を向上させる。
2. 祭りの開催期間を1日だけに限定し、運営にかかる人件費や警備費を最小限に抑える。
3. 混雑を避けるため、地元住民以外の観光客の入場を制限し、公共交通機関の負担を減らす。
4. 露店の出店を禁止して会場のスペースを広げ、観光客の滞在時間を短縮させて回転率を上げる。

問6 東北地方の太平洋側では、1980年や1993年のように、米の作況指数が著しく低下し、農業に深刻な打撃を与える年があります。このような事態を招く気象現象の説明として、最も適切なものはどれですか。（2019年 長野県公立入試 類似）

1. オホーツク海高気圧から吹き込む冷たく湿った北東風「やませ」により、夏の気温が上がらず冷害が発生する
2. シベリア高気圧から吹き出す乾燥した北西の季節風が奥羽山脈を越え、太平洋側に大雪をもたらす
3. 小笠原高気圧の勢力が強まることで、太平洋側から高温で乾燥した風が吹き続け、深刻な干害が発生する
4. 発達した低気圧が日本海を通過する際、山を越えて吹き下ろす熱い風によって気温が急上昇するフーン現象が起こる

問7 東京駅から新青森駅を結ぶ東北新幹線の沿線について、南（東京側）から順に通過する県を並べたものととして正しい組み合わせを選びなさい。（2017年 岡山公立入試 類似）

1. 栃木県 → 福島県 → 宮城県 → 岩手県
2. 群馬県 → 山形県 → 秋田県 → 青森県
3. 栃木県 → 茨城県 → 福島県 → 宮城県
4. 茨城県 → 福島県 → 山形県 → 岩手県

問8 北海道東部の根釧台地は、夏でも気温が上がりにくく霧が発生しやすい気候条件や、火山灰に覆われた土地という特徴があります。このような自然環境を活かして、この地域で最も盛んに行われている産業の説明として正しいものはどれですか。（2026年 茨城公立入試 類似）

（2026年 茨城公立入試 類似）

1. 広大な土地に牧草を整備し、乳牛を飼育して生乳を生産する酪農が盛んに行われている。
2. 大規模な機械化によって、ジャガイモや小麦、甜菜（てんさい）などを生産する畑作が中心となっている。
3. 泥炭地を客土（他の場所から土を運び入れること）によって改良し、大規模な水田による稲作が行われている。
4. 冬の寒さを活かしたビニールハウス栽培が行われ、夏に都市部へ出荷する抑制栽培が発達している。

答え合わせ・解説

問1	答え 1 農業生産額全体に占める米の割合が非常に高く、米を主軸としながら野菜や畜産を組み合わせた生産が行われている。	秋田県は全国有数の米どころであり、農業生産額において米が占める割合が非常に高いのが最大の特徴です。単に米だけを生産するのではなく、農業経営の安定のために野菜や畜産なども取り入れた「複合経営」が行われている点も重要です。他の選択肢にあるような畜産特化型（鹿児島県など）や果実特化型（青森県など）とは統計上の数値構成が明確に異なります。
問2	答え 1 青森県	青森県はりんごの生産量が全国の約半分を占める日本一の産地です。また、西洋なしの生産においても山形県に次いで全国2位となるなど、冷涼な気候を活かした果樹栽培が盛んに行われています。対して、西洋なしで1位、りんごで3位となるのは山形県です。
問3	答え 4 2020年	人口ピラミッドの形状は時代とともに変化します。1980年頃は底辺が広く若年層が多い形状でしたが、2000年の移行期を経て、2020年頃になると出生数の減少により底辺が狭くなり、同時に平均寿命の伸びによって高齢層が厚くなる「つぼ型」へと変化しました。
問4	答え 1 積雪の多い冬の農閑期に、屋内でできる貴重な現金収入源として技術が磨かれたため	東北地方は冬の寒さが厳しく、雪によって農業ができない期間（農閑期）が長く続きます。この期間に、地元で採れる木材や漆、鉄などの資源を加工し、屋内で副業として工芸品を作ることが奨励されたため、高度な技術が蓄積されました。なお、東北地方は6県で構成されており、五街道（東海道・中山道・甲州街道・日光街道・奥州街道）のうち、東北地方を通るのは奥州街道のみです。
問5	答え 1 有料観覧席の導入や体験型ツアーの充実により、観光客1人あたりの消費額を向上させる。	観光資源としての祭りを維持・発展させるためには、単に来客数を増やすだけでなく、観光客に付加価値の高いサービスを提供することが重要です。宿泊を伴う観光プランや高額な有料席、地域特有の体験を提供することで、1人あたりの消費単価（客単価）が上がり、結果として来客数が以前より少なくても高い経済効果を生むことが可能になります。これは持続可能な観光（サステナブル・ツーリズム）の観点からも重視されています。
問6	答え 1 オホーツク海高気圧から吹き込む冷たく湿った北東風「やませ」により、夏の気温が上がらず冷害が発生する	東北地方の太平洋側では、夏にオホーツク海高気圧から「やませ」と呼ばれる冷涼な北東風が吹き込むことがあります。この風が長期間吹き続けると、夏でも気温が上がらず、日照時間も不足します。その結果、稲の生育が妨げられる「冷害」が発生し、過去には米の収穫量が平年の半分以下になるような深刻な凶作を招きました。
問7	答え 1 栃木県 → 福島県 → 宮城県 → 岩手県	東北新幹線は、東京都から埼玉県、栃木県を経て東北地方に入ります。東北地方の内部では、南から順に福島県、宮城県、岩手県を縦断し、終点の新青森駅がある青森県へと至るルートをとっています。山形県や秋田県へは、途中の福島駅や盛岡駅で分岐する路線（山形新幹線・秋田新幹線）が通っていますが、東北新幹線本線の通過県ではありません。
問8	答え 1 広大な土地に牧草地を整備し、乳牛を飼育して生乳を生産する酪農が盛んに行われている。	根釧台地は冷涼な気候と火山灰土壌のため、稲作や一般的な畑作には不向きですが、牧草の生育には適しています。そのため、広大な土地を利用した大規模な酪農が発達しました。十勝平野で行われている大規模な畑作との違いを理解しておくことが重要です。